

2024年度大学院博士後期課程入学試験問題

| 研究科名 | 科目名 |
|----------------|-----|
| 文学研究科 人文学専攻 | 日本語 |

【問題】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、それぞれの解答の最初に、「問一」、「問二」などと明記すること。

さて普通院といわれるものは、特に五台山巡礼者の為に設けられたものであり、五台山独特のもので、他の霊山名蹟にもかかる企てがあったようでもあるけれども、普通院と称せられた、宿坊が設けられてあったことを知らぬ。従って普通院と言う限りにおいて、五台山に限られて居るように思われる。

さてこの普通院の記載は、唐の文宗頃入唐して、親しく五台山を巡礼せる、かの慈覚大師円仁の日誌〔 A 〕に最も精しい。彼は当時五台山への路として、最も利用されたる東、南の両道によったもので、登山は東の道、即ち今の河北正定方面から北上して、五台山に入ったものであり、下山は南の道、即ち五台山と太原、長安に通ずる道を取ったものであったが、今この日誌においては、東南両道に普通院の在ったことを記述している。

(中略)

普通院が五台山巡礼者のために、それが休憩に宿泊にと、設置されたものであることは言う迄もない。唐宋時代における五台山が、〔 B 〕の霊場として、いかに多くの巡礼者を集めて居たことか、唐宋時代の仏教信仰の中心地として、いかに多くの信者を有して居ったか、今ここにその詳細なる記述を省くが、この五台の霊場を慕って、遠く諸外国からも、巡礼者の多くを出して居ることを見ても、その一端を知ることが出来よう。

かくの如き巡礼者のために、其の巡礼の目的を容易ならしめんがため、野宿の不便を救わんがため、その行路において、凡そ半日行程位に、各々普通院を設けて、それが利用に便ならしめたものである。

而してこれは殆んど、無料休憩所、無料宿泊所的な意味を持って居たもののようで、その設備も頗る簡略なものらしく、又その宿泊は僧俗を問わず、一般に開放されて居た。円仁は普通院を説明して（〔 A 〕巻二）、

不論僧俗来集、便宿、有飯即与、無飯不与、不妨僧俗赴宿、故曰普通院。

とて、僧俗共に宿泊し食あれば、食し、無ければ食せずという風で、如何なる人々も普ねく通ずると言う風で、これを普通院と称したもののようである。

(道端良秀「宿坊としての唐代寺院」より。出題の都合により本文を改めた箇所がある。)

出典：道端良秀『中国仏教史全集』第11巻、書苑、1985年

問一 本文中の空欄 A に入る著作名を書きなさい。

問二 本文中の空欄 B に入る菩薩の名称を書きなさい。

問三 「普通院」について説明した本文中の下線部の漢文を下記のように訓読したとして、この訓読文を現代日本語に翻訳しなさい。

【訓読文】

僧俗を論ぜず、来集して便ち宿る。飯有れば即ち与え、飯無くば即ち与えず。
僧俗の赴き宿ることを妨げず。故に普通院と曰う。

問四 本文を読んで、「普通院」について、簡潔に説明しなさい。